

第11回 熊本市自治推進委員会会議録概要

日時：平成28年2月22日（月） 午後3時30分～5時00分

会場：駐輪場 8F会議室

出席者：明石委員長、田中副委員長、緒方委員、越地委員、篠塚委員、毛利委員、安永委員、遊佐委員、吉村委員

欠席者：毎熊委員

| | | | | | | | |
|-------|---|----|---|----|---|----|---|
| 事務局 | <p>1 開会</p> <p>いよいよ、本日が最後の委員会となりました。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、当委員会へご協力いただき、また、多くの貴重なご意見をいただけてきましたことに、厚くお礼申し上げます。</p> <p>本日の委員会では、答申書（案）について、ご意見をいただきながら、最終的な答申書としてまとめていただきます。本日いただきましたご意見を基に、3月末の市長への答申日までに細かな修正を行った上で、各委員へ最終的な答申書として送付させていただきます。</p> <p>なお、本日の委員会は午後5時までの1時間半程度を予定しておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>続いて、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none">○式次第○答申書（案） <table border="1" data-bbox="853 1182 997 1220"><tr><td>資料</td><td>1</td></tr></table>○答申書骨子 <table border="1" data-bbox="853 1227 997 1265"><tr><td>資料</td><td>2</td></tr></table>○情報共有のイメージ図（案） <table border="1" data-bbox="853 1272 997 1310"><tr><td>資料</td><td>3</td></tr></table> <p>なお、第10回の委員会の議事録につきましては、既に各委員にご確認いただき、ホームページ上で公開しています。</p> <p>それでは、明石委員長よろしく願いいたします。</p> | 資料 | 1 | 資料 | 2 | 資料 | 3 |
| 資料 | 1 | | | | | | |
| 資料 | 2 | | | | | | |
| 資料 | 3 | | | | | | |
| 明石委員長 | <p>それでは、第11回の自治推進委員会を始めたいと思います。</p> <p>審議に入ります前に、会議の成立について、事務局より説明をお願いします。</p> | | | | | | |
| 事務局 | <p>ご報告させていただきます。</p> <p>本日は、毎熊委員が所用によりご欠席されております。したがって、委員9名にご出席をいただいておりますので、熊本市自治推進委員会規則第5条第2項の規定により、本日の会議が成立していることをご報告いたします。</p> | | | | | | |
| 明石委員長 | <p>2 議事<答申書（案）について></p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。「2 議事」に入って参ります。はじめに、議事の「答申書（案）について」です。先ほど、事務局からもお</p> | | | | | | |

| | |
|-------|---|
| | <p>話がありましたとおり、本日は、ご提示いただいております答申書（案）についてご協議いただき、最終的な答申書としてまとめを行うこととなります。</p> <p>答申書の作成にあたっては、これまで2回ほど事務局より原案の送付があり、各委員には既にご確認いただいているものとは存じますが、改めて、内容の不足であったり、細かな表現の仕方や文章のおかしな点であったりなど、ご確認の上、ご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、事務局より答申書（案）についての概要と、主な内容について説明をお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>※答申書（案）【資料1】、情報共有のイメージ図（案）【資料3】により事務局説明</p> |
| 明石委員長 | <p>ありがとうございました。ただいま事務局から、「答申書（案）」並びに「情報共有のイメージ図（案）」についてご説明がありました。</p> <p>本日は、P7の「「場」づくりの心得」以降を中心にご意見をいただきながら、進めて参りたいと思います。勿論、それ以外の部分についてのご意見でも結構ですので、お気づきの点がありましたらご意見ください。</p> <p>なお、本日の時点で、新たな内容を盛り込みたいというようなご意見をいただきましても、内容にもよりますが、スケジュールの都合上、難しいと思われます。本日は、表現の変更や既に有る内容の、肉付けや補足など、そのようなご意見をお願いしたいと思います。委員の皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、何かご質問、ご意見等ありませんでしょうか。</p> |
| 篠塚委員 | <p>内容については、特段無かったのですが、答申書（案）、答申書骨子、情報共有のイメージ図（案）は連動していると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>先ほど、ご説明いただいた答申書（案）8ページに書いてある「場づくりの心得」のA B C Dが他の資料のA B C Dと対応していないと思うのですが。</p> |
| 事務局 | <p>答申書（案）を作成していく段階で、答申書骨子のA B C Dの順番を入れ替えております。Aは参加者の利便性を創造するというところで、魅力的な場には絶対的な条件というところで最初に持ってきております。2番目は、参加者が成長できる、ためになるということを考えることが先に来た方が良いのではないかとということで答申書骨子ではCにあったところをBに持って来ています。さらに、そのような場に集まっただいて、場が出来上がった後に、広がりという意味で「繋がり」が書いてある答申書骨子ではBだった部分をCに持ってきております。そして、最終的にその場を高めていくということでDを最後に持って来ていくところで、BとCを入れ替えております。</p> <p>イメージ図については、修正し忘れておりましたので、修正させていただきます。答申書骨子については、前回から変更するとわかりにくくなるのではないかと思います、変更しておりません。</p> |
| 篠塚委員 | <p>ありがとうございます。あと、イメージ図の中で「未来の参加者（無関心層）」と書いてありますが、答申書（案）の中には「未来の参加者」が出てこないのが気になりました。</p> |

| | |
|-----------|---|
| 明石 委員長 | 今、篠塚委員の質問に関わる部分で、イメージ図はどのように使用するのか、答申書との関係を整理したいのですが、ご説明いただけますか。 |
| 事務局 | イメージ図は答申書の資料の中に入れていたいと思っております。したがって、答申書のどこかの部分に、この図を関連付けたいと思っております。 この図の活用につきましては、市長答申の時の資料として使用したいと思っておりますと同時に、今後この答申書を受けまして、本市における市民参画・協働がさらに進んで行くよう、庁内の啓発に取り組む際の資料として活用して参りたいと考えております。 |
| 明石 委員長 | 先ほど篠塚委員からご指摘があった、イメージ図と答申書で表記の順番が違うというのは単純な整理漏れというところでしょうか。 |
| 事務局 | はい。場づくりの心得の部分は訂正をさせていただきます。 |
| 越地 委員 | 答申書と骨子はどのような使い分けがあるのでしょうか。 答申書は当然、市長への答申に使用すると思いますが、骨子は骨子でこのような場合に使うといった目的はあるのでしょうか。 |
| 事務局 | 今、お示ししている骨子につきましては、前回から少し期間が空きましたので、見比べていただいた方が、答申書（案）についてご意見いただく際に、わかりやすいかと思ひ、今回の資料として用意させていただきました。 ただ、答申書（案）を整理していく際に、文章の流れや内容を考えて骨子の項目から変更した部分もございます。あくまでも骨子をご提示させていただいたのは、答申書（案）と見比べていただくのが目的でございます。 答申書の内容が固まりましたら、今後、答申書の概要というものを作成して参りたいと考えております。 |
| 越地 委員 | 答申書を作成する一段階として答申書骨子を作成しただけで、答申書と答申書骨子の2つを使い分けるわけでは無いのですね。あくまで、これからは答申書が論議の成果であるということですね。今、概要とおっしゃったのは何に使用されるご予定でしょうか。 |
| 事務局 | はい。市長への答申の際にも概要版があった方が良さだろうと思っておりますし、概要版を元に庁内推進も図っていきたいと思っております。 |
| 明石 委員長 | 越地委員の質問に関連して、市長への答申を実施した後、職員への合意や共有が必要だと思うのですが、その辺りの対応はどのように考えておられるのでしょうか。 |
| 事務局 | 答申書が固まりましたら、今後、市として取り組む予定がある施策、あるいは取組んで行こうとしている施策を、この答申書に沿って整理したいと考えております。 また、先ほど、明石委員長からご質問があった、この答申をどのように職員と情報共有するかについてですが、熊本市では市民参画を実施するために市民参画の実施方針（マニュアル）というものを定めております。その中で、市民参画を実施する際には市民協働課と協議を行うということになっております。現在の、市民参画の実施方針やマニュアルの中では、今回の答申の主な内容であります情 |

| | |
|-----------|---|
| | <p>報共有の部分についてはあまり触れておりません。まず、この答申の内容を実施方針やマニュアルの中に組み込んでいきまして、市民協働課との協議の際に、特に大事な部分であり、出来る限りの情報共有の取組みを行っていただくよう、周知して行きたいと思えます。</p> |
| 明石 委員長 | <p>ありがとうございます。では、他に質問もなさそうですので、せっかくですので、2年間の最後の締めくくりと言いますか、委員の皆様より一言ずついただければと思います。</p> |
| 毛利 委員 | <p>皆様と一緒に「情報共有」という大きなテーマに向かって研究させていただいて、私自身、日々の活動にズバリといった内容がたくさんありましたので、この勉強が少しは役立てられるかなと思います。特に思っていることは、情報共有のプロセスが3段階あるのですが、最後のところまで行ってはじめて、真の情報共有に至るというのは、本当にそうだと思います。しかし、一方で、途中の情報の発信や情報の理解の部分であっても、情報共有が出来るような気もします。実際活動をする中で、それが無いと活動が出来ない場面も多々あります。これからも「情報共有」という大きなテーマに向かって、私達自身もまちづくりをしている方と意見を交換できるのではないかなと思いました。2年間本当にありがとうございました。</p> |
| 安永 委員 | <p>私は短大に通った後に大学に転入をし、今は大学生をしています。短大時代にまちづくり活動をする先生やまちづくりサークルと出会って、まちづくりに興味を持ったのですが、それまでは典型的なまちづくりに無関心な若者でした。この委員会に参加するようになってから、無関心層という言葉や、若者がまちづくりに参加しない現状を理解して「少し前までは私もそうだったのかな」とか「たくさんの無関心の若者に囲まれて生活しているな」ということに気づきました。</p> <p>何故みんなまちづくりに参加しないのか考えた時に、何をすれば良いかわからないし、怖そうと若い人は思っているし、若い人のライフスタイルとまちづくり活動がマッチしていないということが見えてきました。</p> <p>また、若い人がまちづくり活動に参加しないと、誘う側もどのように取り込めば良いかわからないから、さらに疎遠になっていくのだろうなと思いました。</p> <p>私は、無関心層に多いと言われる若者の立場に立って意見を言ってきたつもりです。本当に勉強することばかりでした。2年間本当にお世話になりました。</p> |
| 遊佐 委員 | <p>この2年間、私自身も情報の発信者にも受信者にもなる可能性がある人間として、とても濃い内容で学ばせていただいたなと思っております。私は今、ファシリテーターとしての活動を始めさせていただいておりまして、勉強している途中です。また違った形で情報共有について学ばせていただきながら、色々な繋がりを創ってみたいなと思っております。本当に2年間ありがとうございました。</p> |
| 吉村 委員 | <p>情報共有ということが如何に難しいかということ、色々考えさせられた委員会であったと思います。参画・協働というのも大きなテーマであります。例えばプロジェクトなどの何かを参画・協働していく中で、情報共有というものが進んで行くのではないかと思います。情報をいくら提供してもどうしても届かない</p> |

| | |
|------------------|---|
| | <p>という現状を私自身感じておりますので、例えば、イギリスなどの海外のように企業が人材育成の一環として、まちづくりへの参画を取り入れていくことで、大学や企業の社員、地域のNPOや自治会などとの協働でまちづくりへの取り組みが進んでいくことで、自ずと情報共有が進んでいくのではないかと思います。</p> <p>今回のテーマは「情報共有」でありましたが、協働して取組む形のまちづくりが今後もっと広がっていけば良いなと期待しております。ありがとうございました。</p> |
| <p>篠塚 委員</p> | <p>この2年間委員会に参加させていただいて、市の取り組み、各区の取り組みが非常に多岐に渡っていることを勉強させていただきました。情報の共有について切実に取り組まれている様子もわかりました。</p> <p>最初は子ども会の活動をしたことから、この委員会に参加させていただくことになったのですが、非常に勉強させていただいたと思っております。</p> <p>この答申書案を見させていただいて、市から市民に対して発信するだけではなく、市民が発信者となり市が受信者になることもあるというところが非常に嬉しく感じました。私のまちの公民館に小さな図書室があるのですが、あまり利用者がいないので潰れてしまおうかという意見が出た時に、地域の人たちで活性化させよう、継続させて行こうという動きが出ております。その取り組みを地域の方には勿論なのですが、行政の方にも知っていただきたいと考えていたところなので、このように答申書に書いていただければ、この取り組みにも意味があるかなと思いました。本当にたくさんのご意見を勉強させていただいて、意味がある委員会であったと思っております。ありがとうございました。</p> |
| <p>越地 委員</p> | <p>もともと、情報という掴みどころもないものに迫ろうということですから、おそらく最初は形の無い物に枠組みを作り、そして、それを理念や基本方針という形で整理をしようというのが、この2年間であったと思っております。その作業をするにあたって、事務局の作業を、尊敬を持って見ておりました。掴みどころの無い物を整理するというのは非常に難しいと思っております。その点に関しては本当にご苦労が多かっただろうなという点に関しては、日々の資料の送付などを見て痛感していたところです。敬意を表します。</p> <p>今後のことを考えると、情報共有とはこんなものだろうか、こうあったら良いなという枠組みが出来た。それを市民の方に実感していただくには具体化して、目に見える形にしないといけないわけです。市の職員も地域に出向くようにしようとか、既存の場を更に活用しようであるとか、いろいろな理念が謳われておりますが、具体的にそれはどういうことなのかという部分が無ければ、掴みどころのない情報の世界ということで、わかったようでわからないということになってしまいます。よって、来年度以降、具体化に非常に期待があるわけです。この後、もしお許しいただけるのであれば「実はこのようなことを考えているのだ」ということについて教えていただきたい。今後のことだから、この場で言うことが適切でないということであれば、是非、来年度以降、その部分を充分練っていただきたい。来年からの2年間でそれを見てみたいという期待があります。</p> |

| | |
|---------------|---|
| <p>緒方委員</p> | <p>この2年間、行政とNPOそれぞれの立場から意見を述べさせていただきました。区民だよりを見ていて、以前よりも区の取り組みに市民参加が多くなったなと感じました。</p> <p>昨日の熊本城マラソンで、情報共有がうまくいったなと思ったことがあります。最初にRKKが現場の状況を放送していて、そこが終わったあとに、また違う放送局からの放送に切り替わりました。マラソンひとつ取ってみても、行政と市民、広報すべてがうまく回っているのかなと思ひ、情報発信の具体例として感じたところです。</p> <p>先ほどのイメージ図の中で、可能であればということで提言させていただきました。受信者への期待という部分があると思いますが、その最後で良いので「受信者の成果」という項目を入れていただきたいと思ひます。いろいろなことに無関心であった方が、活動に参加した時に「こんなことが知れて良かった」とか「このようなことに役立った」などの発見が山ほどあると思ひます。そういうことが広報誌の中に入り込んで行けば、無関心だった方との情報共有がもっと広がるのではないかなと思ひます。成果が出たらそれを発表していくみたいなきことができれば、この答申書の具体化になるのではないかなと感じました。</p> |
| <p>田中副委員長</p> | <p>この委員会に副委員長という立場で参加させていただいて、本当に明石委員長にもお世話になりながら、色々勉強させていただきました。</p> <p>現場の声を届けることが、私の仕事だと思ひているので、南区のまちづくり懇話会に携わっていた時に勉強させていただいた区の現場から、どれだけ意見が言えるかを意識して参加しておりました。常によそ者の意見としてフィードバックしてきたつもりです。越地委員などの文章のプロがいらっしやる中で、僕が意図的に思っていたことは絵にするといことなんです。もちろん答申書は大事なのですが、私にとっては、情報共有のイメージ図(案)【資料3】がかけがえのない成果です。</p> <p>但し、一枚の絵にするということはひとつの目標ではあったのですが、終わりではなく始まりであると思ひています。新しいものが入って来たり、いらぬものを消したりという作業を行って、よりシンプルな絵にしたいなと思ひております。個人的には、まだ字が多いなと思ひていて、字を減らして矢印を増やしたいと思ひています。</p> <p>一つ目の目標は絵にすることだったのですが、二つ目の目標はお話にすることです。ストーリーを描くということはとても大事なことです。この絵は左から右に流れていくような姿が本来の姿であると思ひています。私も最初はよそ者で熊本のことを全然わからなかったところから10年経過して、大分わかるようになりましたけど、それでもまだまだと思ひています。それが最後にどのような学びを得て、熊本に還元していけるのかという魅力みたいなきところに繋がっていかないと、ただ単に情報というおもちゃを遊んでいるような気がしており、熊本に根ざした情報共有があるべきなのかなと思ひています。</p> <p>この絵の特徴は、人が書き込まれていることだと思ひます。答申書にはなかな</p> |

| | |
|-------------------|--|
| | <p>か人が書き込まれないのですが、私が常に意識している「デザインシンキング」という考え方の中では、人が中心です。この絵には「誰が」というのも書いてありますけど「誰と」というのも書いてありまして、この中の誰と誰がマッチングして、行政から市民への情報提供だったのが、今度は市民が情報の発信者側になろうという風にどんどん役柄が変わっている。そのようなことも重要なのかなと思っています。この絵を描いていただいた事務局の皆様には本当に感謝していますが、これからももっともっと素敵な絵にしていくために、何ができるかを常に考えなければならぬと思います。2年間本当にありがとうございました。</p> |
| <p>明石 委員長</p> | <p>委員の皆様本当にありがとうございました。これまでも貴重なご意見をいただきましたし、最後までコメントで、たくさんのご意見をいただいたところです。</p> <p>皆様方からのご意見を整理すると、直接、答申書の内容を訂正するご意見は無かったかと思えます。イメージ図については、緒方委員から「受信者への期待」の部分に、受信者が何を学び得たかということを入れて欲しいということですが、この内容を入れるかは、イメージ図に手を入れていく中で検討させていただくということでしょうか。おっしゃったとおりになるかどうかはわかりませんが、その点はご了承ください。</p> <p>基本的に、皆様方のご意見は、これから先の話についてのことだったと思います。情報の発信あるいは情報の受信、情報の創造などのプロセス、見えないもの、わかりにくいものを形にすることはこの2年間で出来たので、後はこれをどう具体化していくか。具体的なプロジェクトなどで、地域の自治会などどう関わるか、そういう目に見える形で事業に取り組む中で、情報共有や繋がりというものを再確認できる。越地先生がおっしゃられた具体化もそのあたりに繋がる話だと思いますが、そういう意味で、職員の皆様にそういう意識をしっかり持っていて、きちんと市民と協働していただいた上で情報が共有でき、新たな繋がりが出来たり、既存のネットワークと繋がったり、ひとつの絵柄を織り上げていくということが、前に進んでいくということです。これから先はどうやって具体的に目に見える形にしていくかというあたりが一番難しいし、大変だと思いますが、そのあたりが大事ではないかというご意見をいただけたと思います。</p> <p>2年間、皆様方から実例や色々なご経験をお聞かせいただいて、また、通常の委員会ではありえないワークショップなどでの会議なども経験させていただきました。先ほど遊佐委員もファシリテーターとして活動しているとおっしゃられていましたが、繋がりを創るというには、それなりの手法や技法があります。ファシリテーションについては、答申書の中にも書かれていたと思いますが、職員の皆様方にこれがどういう機能を果たすのか、研修等を通じて理解いただくことも必要です。熊本市では、実際に総合計画策定のために、大規模なワークショップを実施されておりますが、ああいったことを通して、越地委員の言われた、見える・具体化に繋がると思えます。是非、これからも熊本市のお仕事の中心にそういった考え方を据えていただいて、理念と具体的な方法をうまく結びつけて具体化していただくことが望まれている内容かなと思います。</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>私も2年間委員長をさせていただいて、皆様のご協力を得ながら、何とかここまで来ることができて感謝しております。</p> <p>それでは、基本的には答申書については原案のとおりということでよろしいでしょうか。また、イメージ図については先ほど田中副委員長がおっしゃったとおり少し修正はさせていただきたいと思いますが、これに関しては、正副委員長と事務局にご一任ということでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;"><一同異論なし></p> <p>ありがとうございます。今後はそのような形で、30日の市長答申に向けて調整させていただきたいと思います。</p> <p>それでは、今後の日程を事務局からお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>それでは、市長答申の日程についてご説明させていただきます。</p> <p>日 時 平成28年3月30日（水） 午後2時～（30分程度） ※午後1時45分までに市民協働課に集合</p> <p>場 所 市庁舎5階庁議室</p> <p>委員の皆様にもご同行いただき、懇談の際には市長に所感を直接述べていただければと思います。なお、最終の答申書につきましては、委員の皆様にも事前郵送させていただきます。</p> |
| 明 石 委員長 | <p>ありがとうございました。委員の皆様のご出席をお願いいたします。</p> <p>それでは、最後に私から挨拶のほうをさせていただきます。2年間、皆様にはお忙しい中、貴重なご意見をいただきまして、私自身も良い勉強をさせていただきました。</p> <p>先ほど申し上げたとおり、情報の共有あるいは繋がりを確認し、あるいは地域で協働して課題を解決していくということについて、理屈は非常に簡単で、誰も文句を言う人はいませんが、具体的にそれをどうやって進めるかと言われるとなかなか難しい話です。色々な利害の調整もしないといけませんし、そもそも誰がそれをやるのかという主体の問題もあります。しかしながら、委員の皆様方の2年間のご議論の結果、答申という形でひとつの道筋がおぼろげながら見えてきたと、そして、その道筋を今度はしっかりした色で染め上げるということが、これからの作業になると思います。その中身としては、具体的に市と市民と協働や自治会等との団体との協働を進めることで、だんだんと道筋が踏み固められて、しっかりとした道になると。その為には市の職員の皆様方に、情報共有の重要性や、パブリックインボルブメントという言葉だけではなく、その意味も踏まえて情報共有を常に考えながら日々の業務を行っていただくように、全体の研修を行いながら、政策の展開にあたっては、充分なご配慮をいただければと思います。</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <p>この2年間、滞りなくこの日を迎えることができましたのは、ひとえに委員の皆様方のお力でありますし、事務局の皆さまのおかげであると思います。本当にご苦労様でした。30日が最終の答申の日ですが、まだ少し詰めの部分があると思いますので、そのあたり、しっかりやっていただいて、市長へ答申が出来ればと思っております。</p> <p>この2年間本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。</p> |
| 明石 委員長 | <p>4 閉会</p> <p>それでは、最後に、事務局から何かありますでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございました。</p> <p>本日が最後の委員会ということで、市民局長から皆様にお礼のご挨拶をさせていただきます。</p> |
| 市民局長 | <p>こんにちは。市民局長の永目と申します。明石委員長、田中副委員長をはじめ、委員の皆様におかれましては、2年間に渡り、延べ11回に渡る厚い論議を賜りまして、お蔭様で答申の道筋がまとめられたということでございます。この場を借りまして2年間のご労苦に深く感謝を申し上げます。</p> <p>情報の共有というテーマは非常に、まちづくりにおいても重要なテーマだと思っています。先ほど田中先生からもありましたが、田中先生はまちづくり懇話会の会長をさせていただいているのですが、私が南区長時代に最初に取り組んだことが、この情報の共有でありました。区ができて、区の意識が市民一人ひとりに行き渡っていなかった中で、一番小さい単位での情報は隣保組みの情報、そうしますと、町内の情報、或いは校区の情報、場合によっては中学校区の情報、そのようなスケールで様々な情報を持たれている、それを如何にして行政が吸い上げていくか、また、区役所の情報や市の情報をどのようにして、段階的に一人ひとりまで周知していくか、非常に悩ましいなか重要なポイントとして取り組んできたところでございます。そのような中で、今回、このような答申をいただきましてありがとうございます。この答申をしっかりと受け止めて、今後のまちづくりに活かして参りたいと思います。</p> <p>現在、熊本市において考えております取組みを、少しだけお話をさせていただきます。申すまでもありませんが、都市部における都市化の進展、農村部においては高齢化が著しいなどの状況下において、非常にコミュニティが希薄化してきている現状にあることを課題として受け止めております。その結果として、自治会や各種地域団体の活動者の成り手がない、いわゆる担い手不足、後継者不足の問題が現実的にあります。地域の課題として認識しつつも具体的な改善策に取り組めていない、ところによっては放置されている現状です。自助、共助、公助でいきますと、共助の体制が非常に脆弱であると考えております。そのような中で、公助として共助の体制を支えることができないかということで、平成29年度から、まちづくり交流室を拡充いたしまして、まちづくりセンターという組織にしたいと考えています。まちづくりセンターには地域担当職員というものは配置します。その主な役割として、地域に飛び込んでいくこと、そして地域の皆様と対</p> |

| | |
|-------------------|--|
| | <p>話をし、地域の課題を吸い上げ、或いは要望や相談を受けるというものです。さらに、地域課題を解決するためには、まちづくりセンターだけでは対応できませんので、もっと区役所の企画調整機能を充実させると共に、区役所だけではできないことは、各局と連携して解決してゆくといった、新たな庁内における協働の体制を整えて行きたいと考えています。また、まちづくりセンターでは吸い上げた地域の課題や、まちづくりのキーマンとなる方、或いは、次世代を担うまちづくりの活動者のリスト化など、様々な地域情報を、地域カルテとして情報をストックしていきたいと考えています。このような取組みを通して、自助・共助・公助の体制をしっかりと確立していきたいと思っています。</p> <p>一方では、地域担当職員というマンパワーを確保するための取組みが必要となります。熊本市は政令指定都市に移行する際に、他の政令指定都市と比較しても、出張所など、窓口が多いという現状がありました。現状としまして、交通の利便性のよい区役所や出張所の利用から、取扱い件数が著しく減少した窓口があります。また、昨年10月のマイナンバー制度の導入により、平成28年3月から各種証明書のコンビニエンスストアでの発行が始まります。さらには、平成29年7月からは、多くの手続きにおいて、各種証明書などの添付が必要なくなり、証明書の発行件数は半減するものと見込んでいます。そのような理由から、窓口の再編を検討しているところであり、現在19箇所ある出張所の内、利用の少ない8箇所の出張所を廃止する予定で取り組んでいるところです。このようなことで、確保できたマンパワーを地域担当職員や、不足している社会保障関係の部署へ投入したいと考えているところです。</p> <p>いただきました、答申につきましては、このまちづくりセンターの設置による、まちづくり機能の充実した運営において、十分に活かして生きたいと考えておりますし、確実に具体化して参りたいと考えておりますので、改めまして、2年間に渡るご議論に感謝を申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。</p> |
| <p>明石 委員長</p> | <p>ありがとうございました。ただいま、市民局長よりまちづくりセンターの設置や地域担当職員の導入についてお話がありました。</p> <p>越地委員の先ほどに要請に対して、お答えいただいたものではないかと思いますが、越地委員より何かございますか。</p> |
| <p>越地委員</p> | <p>新しく何かやるということ、既存の物を活かすということ、この答申書にも盛り込まれております。新しく何か取り組もうとする時に見落としがちなのが、今ある物で眠っている部分に火をつける、こちらが新規に何かを始めるよりも効率的であると思います。それでは、具体的に何なのかと申しますと、私が再三この委員会で意見してきたように、校区自治協議会の活用です。校区自治協議会が他の政令指定都市にあるかどうかは把握していませんが、校区で何かを生み出していこう、結束していこうということは、一種の熊本の伝統であると思っています。その集合体が校区自治協議会であると考えています。この校区自治協議会の活動には非常に濃淡があります。失礼ながら、旧態依然のように、単に各種団体が集まって、月一回会合を行うだけの団体であったり、毛利委員の一新校区のように、</p> |

| | |
|--------------------|--|
| | <p>この地域から何かを生み出そうと積極的な取り組みを行っている団体であったりと、その差は歴然です。また、基本的な部分で校区自治協議会とはなんぞやという整理が行われていないという感じもします。今回の答申の具体化の一つとして、私は校区自治協議会は熊本市の宝であると思っていますので、例えば、校区自治協議会の運営のあり方というような勉強会や研修会を始めたらどうかと思っています。校区自治協会の中には、具体的に何をやってよいのか分からない、地域団体で何ができるのかというような戸惑いを抱えながら、結局、従来どおりのパターンで活動を行っている団体が多くあります。このようなことができるし実例もある、或いは、実例がなくてもチャレンジする余地があるといったような情報や切り口となるスキルを、是非、年に1～2回程度の研修ではなくて、校区自治協議会の担当を決めて、年10回程度の勉強会をスタートさせることであれば、直ぐにでも取り組めるのではないのでしょうか。そして、そのような点に焦点を当てて、掘り下げて取り組んでいくと、これは熊本方式と言えるのではないでしょう。</p> |
| <p>明 石 委員長</p> | <p>ありがとうございました。その他、委員の皆さまから何かございますか。</p> <p>それでは、今後、正副委員長と事務局で30日の答申に向けて、最後の答申書の調整をさせていただきます。答申書が確定いたしましたら、皆様方のお手元に送付させていただきます。また、先ほど、事務局からご案内がありましたとおり、答申の際にご都合のつく方は、なるべくご出席いただくと幸いです。</p> <p>それでは、予定していた終了の時間となりましたので、これをもちまして、委員会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。</p> |